

台風で郵便受け壊れたら 代わりに手作り品届いた

配達員の優しさに感謝

新聞エッセー最優秀 田崎香澄さん（6年）
（日之影小）



第28回新聞配達に関するエッセーコンテスト（日本新聞協会主催）の小学生部門で最優秀賞に輝いた日之影町・日之影小6年田崎香澄さん（12）の作品タイトルは「ポストに優しさ届いた」。新聞配達員への感謝がふれるエッセーで、登場する宮崎日日新聞日之影販売所配達員、平崎正則さん（82）＝同町七折＝は「素晴らしいエッセーに私のことを書いてくれてありがたい。また頑張ろう、と元気をもらった」と喜んでいる。（1面に関連記事）

平崎さんは4年前の配達中、台風で田崎さん宅の郵便受けが落下し、壊れていることに気が付いた。そこで、得意の木工技術を生かし、手作りした郵便受けを贈ったという。

学校から帰り、真新しい郵便受けに驚いた当時小学2年生の田崎さんはその日から、「新聞配達のおじちゃんって、どんな人なんだろう」「何年くらい

プレゼントした手作り郵便受けの前で笑顔を見せる新聞配達員の平崎正則さん（右）と日之影小6年田崎香澄さん＝日之影町七折

「40年続け尊敬、頑張って」

続けてるんだろう」な
どと思いを寄せていた
という。

そして今年の夏休み、初めて平崎さん宅に会いに行った。「顔を見たら、優しい雰囲気の方で、話しやすかった。読者のために配達を続けていると聞いてすごうれしかったし、新聞を読んでみようと思うようになった」と振り返る。

40年前から、雨の日も雪の日も使命感を胸に毎朝新聞を配達している平崎さん。「宮日」を待ってる友がいて、届けるとこちらも気持ちがいい。90歳までは続けたい」と、買い替えたばかりの110ccバイクにまたがる。そんな平崎さんのひたむきな姿に、田崎さんは「皆が寝ている間に、40年も続けていて尊敬する。これからも、事故に気を付けて頑張ってください」とエールを送っている。

（中西透）